

平成 28 年の大阪経済

—大阪経済は足踏みを脱し回復へ—

商工労働部（大阪産業経済リサーチセンター）は、府内の経済動向について四半期ごとに『おおさか経済の動き』としてとりまとめています。このたび、平成 28 年の年間の経済動向を『平成 28 年の大阪経済の動き』として発行しました。その概要は以下のとおりです。

平成 28 年の大阪経済は、設備投資は低調であったが、消費が底堅く推移した。輸出額は、円高により減少が続いていたが、円安に転じた年末には増加基調となった。低下傾向にあった生産は、10～12 月期に大幅な回復に転じた。完全失業率は低い水準で推移し、就業者数が増加するなど、雇用は堅調に推移した。

【目次】

要約

第 1 章 大阪経済は足踏みを脱し回復へ

1. 国内経済は秋以降、回復が顕著に
2. 大阪経済は秋以降持ち直し
3. 需要は横ばいで推移
4. 生産は反転し、雇用は堅調に推移
5. 企業活動の持ち直しは緩やか

第 2 章 平成 28 年の経済動向

第 1 節 内需が横ばいで推移する中、年後半に外需が持ち直し

1. 個人消費は足踏みを脱せず
2. 住宅投資は引き続き持ち直している
3. 民間設備投資は回復
4. 輸出額は 4 年ぶりに減少したものの、貿易収支は改善
5. 観光は外国人旅行者が下支えするも、後半はやや減速

第 2 節 産業活動は、生産の復調等により秋以降持ち直しへ

1. 生産活動は、電子部品・デバイス等の上昇により、年後半から持ち直し
2. 雇用は改善傾向
3. 消費者物価はやや低下、企業物価は低下
4. 企業倒産件数は 7 年連続の減少

第 3 章 平成 28 年の企業動向

第 1 節 企業の業況は弱含みを脱し、10～12 月期に回復の動き

1. 企業の業況判断は 7～9 月期まで弱い動きが続く
2. 営業利益は年後半から改善、資金繰りも緩やかな回復基調へ
3. 引き続き雇用不足感がみられる

第 2 節 中小企業の業況は減速感がみられたが、年末に持ち直し

1. 出荷・売上高及び営業利益は緩やかな回復基調
2. 受注・販売は緩やかな回復傾向の中で一部に弱い動きがみられた

主要経済指標